

★えほん★

「おふくさんのおふくわけ」

服部美法／ぶん・え 大日本図書 E3ハツ

「おれさまははらがぺこぺこだ！」と、おにがやってきたけれど、あるのはおいもがひとつきり。でも、おふくさんたちはへっちゃら。いっしょにおいもとんとんきって、こむぎことませたら、あとはむすだけまつばかり。できあがったのは…？



★よみもの★

「きみ、なにがすき？」

はせがわさとみ／作 あかね書房 931ハセ

あなぐまは家の前のにわをみて、なにかをつくりたいと考えた。「そうだ、なかよしのこぶたがすきなじゃがいもがいいかな」。あなぐまはたねいもをかおうと町へ歩いていくと、かごいっぱいじゃがいもをもったこぶたが会いにきた。さて、なにをつくろう？



★しらべもののほん★

「イスラム世界 やさしいQ&A」

岩永尚子／著 講談社 16

「イスラム世界」と聞いた時の印象は宗教？テロ？でもよくわからない…という人が多いのでは？この本では「イスラム教って何を信じているの？」「イスラム国（IS）は何をしようとしているの？」など、イスラム世界の疑問をわかりやすく紹介。



あたらしい本のコーナー

「きつねの童子 安倍晴明伝」

堀切リエ／文 いしいつとむ／絵 子どもの未来社 E1キツ

むかしむかし、信太の森の明神様にお参りした安倍保名は白いキツネを助けたことで命をねらわれてしまった。ケガをした保名は女に助けられ、ふたりは仲よく暮らし、やがて童子丸という名の男の子が生まれるのだが…。



「チューリップ」

荒井真紀／さく 小学館 E2チユ

チューリップのきゅうくんは、つちのなかでふゆのさむさにあたらないと、めをだすことができない。めがでてはがのびはながさき、はながちったあとも、チューリップにはだいになしごとがのこっているよ。なんだろう？



「ぼくのともしちかニやまさん」

ニシワキタダシ／作・絵 PHP研究所 E3ニシ

あるひ、みちをあるいていたら、カニみたいなひとがあらわれて「ともだちになってください」という。きゅうにはムリだよってことわったけど、こまったことがあったらいつてくださいていうから…。



「シランカッタの町で」

さえぐさひろこ／作 にしむらあつこ／絵 フレーベル館 931サエ

小3のよだかすきのあだ名が、いつのまにか「よだっち」から「よわっち」になった。こわがりであがり性。何をしてもうまくいかない。そんなある日、見知らぬおばあさんの持っている万華鏡をのぞいてみると…。



「テディが宝石を見つけるまで」

パトリシア・マクラクラン／作 こだまともこ／訳 あすなろ書房 932マク

ぼくの名前はテディ。詩人のシルバンさんに飼われていた犬だ。ぼくは人の言葉がわかる。でもぼくがわかるのは詩人と子どもだけなんだって。これは、ひとりぼっちになったぼくが、吹雪の中で助けた小さな兄妹の話だ。



「ぼくたち負け組クラブ」

アンドリュー・クレメンツ／著 田中奈津子／訳 講談社 932クレ

アレックは授業中もこっそり読むほど読書に夢中で、本の虫とよばれるのも平気だ。放課後プログラムの間も、何とか本を読もうと「負け組クラブ」という読書クラブを作った。こんな名前のクラブなら人が寄り付かずゆっくり本が読めると思ったのだが…。



「そうだったのか！初耳恐竜学」

富田京一／著 小学館 457

「恐竜」と聞くと巨大生物をイメージするが、多くはウサギぐらいの大きさだった！？この本は、恐竜とは何か？というところからはじまる。どんな姿をして、何を食べていた？など、新しい情報もっている。ページ左の「恐竜豆知識」も初耳な情報がいっぱいだ。



「探検！世界の港」

PHP研究所／編 みなと総合研究財団／協力

PHP研究所 68

毎日の生活にかかせない物の積みおろし、人々が乗りおりする場所、「港」。さまざまな種類の船がとまり、その役割によって港の形や機能もさまざま。まわりを海に囲まれた日本には、港がたくさんあるけれど、外国の港はどんなのかな？港について、くわしくなる1冊。



「世界の民族衣装」

竹永絵里／画 河出書房新社 38

民族衣装は、いまではお祝いやお祭りの時にしか着られていない。だが、その土地の気候に合わせて出来てきていて、その土地の歴史もあらわしている。だから、着ることは誇りでもある。

